



新一万円札発行カウントダウンプロジェクト

新一万円札の肖像に北区ゆかりの偉人・渋沢栄一が選ばれたことを機に、北区では令和元(2019)年5月より「東京北区渋沢栄一プロジェクト」を立ち上げました。さらに紙幣刷新まで1年を切った令和5(2023)年9月、「新一万円札発行カウントダウンプロジェクト」を始動しました。特集では渋沢栄一と北区との関わり、区全体で盛り上げているプロジェクトについて紹介します。

◆令和元(2019)年より「東京北区渋沢栄一プロジェクト」を展開

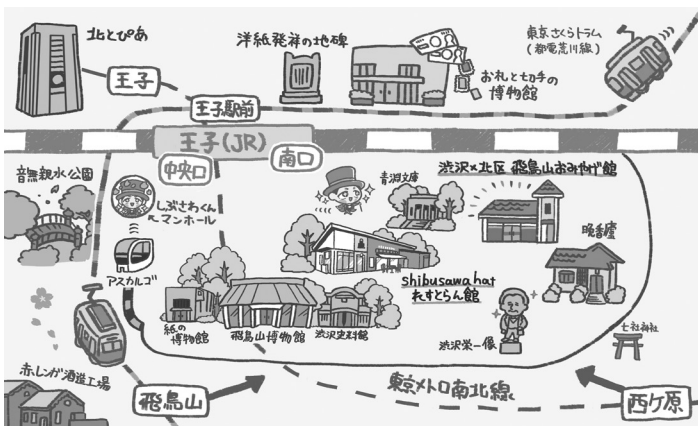
北区ゆかりの渋沢栄一が
新一万円札の顔に決定！

実業家・渋沢栄一の足跡に
北区の至る所で出会える

平成31(2019)年4月、財務省が令和6(2024)年に紙幣を刷新することを発表し、新一万円札の肖像には北区とゆかりの深い渋沢栄一が選定されました。聖徳太子、福沢諭吉に続く3人目の肖像となります。これを受けて北区では、新紙幣発行までの機運を高め、渋沢栄一の功績や渋沢栄一を核とした北区の魅力を広く発信することにより、北区の知名度向上とイメージアップへとつなげていくことを目的として、令和元(2019)年5月、「東京北区渋沢栄一プロジェクト」を立ち上げました。

「近代日本経済の父」と称される渋沢栄一は、日本の経済を発展させ、産業を近代化に導いた人として知られています。生まれは埼玉県深谷市ですが、人生の後半約30年間を北区王子の飛鳥山で暮らしました。「職住近接」の理念のもと、設立に関わった抄紙会社(後の王子製紙株式会社)を近くで見守るとともに、多くの賓客を邸宅に招き、社交や民間外交の場として活用しました。また、地域との交流も大切に、当時の王子町と滝野川町を結ぶ音無橋開通の支援、西ヶ原一里塚の保存への尽力など、さまざまな活動をして

現在の飛鳥山公園一角の旧渋沢庭園内には、国の重要文化財に指定された大正期の建物「晚香廬」と「青淵文庫」が当時のままの姿で残り、邸宅があった場所には「渋沢史料館」があります。そのほか抄紙会社の跡地に建つ「洋紙発祥の地碑」、支援を行った「音無橋」と「西ヶ原一里塚」、氏子となり再建の支援も行った「七社神社」、抄紙会社誘致の際に用水や用地の調停に奔走した王子村組頭の業績を記した「熊谷源左衛門君碑」、渋沢栄一が設立した日本煉瓦製造株式会社のレンガで作られた「旧醸造試験所第一工場」(国重要文化財)など、区内の至る所に渋沢栄一の足跡が残されています。



北区に残る渋沢翁のゆかりの地マップ



3つの博物館

■ 渋沢史料館

旧渋沢邸跡に建つ博物館。飛鳥山公園一角にあります。渋沢栄一の生涯と事績に関する資料を収蔵・展示、6月2日までは「渋沢栄一肖像展」が開催されています。隣接する旧渋沢庭園内には渋沢栄一の喜寿を祝って大正6（1917）年に建てられレセプションルームとして使用された洋風茶室の「晚香廬」と傘寿と男爵から子爵への昇格を祝って大正14（1925）年に建てられ接客の場として使用された書庫の「青淵文庫」があり、いずれも内部を見学することができます。



渋沢史料館

住所：北区西ヶ原2-16-1
TEL：03-3910-0005
開館時間：10時～17時（入館は～16時30分）
休館日：月曜（祝日の場合は開館）、祝日直後の平日、年末年始
入館料：一般300円、小中高100円

■ 北区飛鳥山博物館

北区の歴史・自然・文化に関して幅広く展示する区立の博物館。1階の常設展示室では北区の成り立ちから江戸時代の名所の発展、荒川の生態系まで、実物資料、レプリカ、映像、復元家屋などを通して人々の暮らしの歴史を美観で展示がされています。2階は企画展などを開催する特別展示室、3階は北区ゆかりの作家の美術伝統工芸品を鑑賞できるアートギャラリーになっていきます。令和3（2021）年2月20日から12月26日、館内に「大河ドラマ館」を開館しました。



北区飛鳥山博物館

住所：北区王子1-1-3
TEL：03-3916-1133
開館時間：10時～17時（観覧券の販売は～16時30分）
休館日：月曜（祝日の場合は開館し、直後の平日に振替休館）、年末年始、その他館内整備日
入館料：一般300円、65歳以上150円、小中高100円

■ 紙の博物館

和紙、洋紙を問わず紙に関する資料を収集し、保存・展示する紙専門の博物館。昭和25（1950）年、「洋紙発祥の地」と呼ばれる王子に開設されました。紙の製造工程、種類や用途、紙の歴史、紙の工芸品、歴史的資料や生活用品などを常設展示し、紙に関する書籍の一般公開もしています。企画展や紙を素材としたイベントも実施し、毎週土・日曜には、牛乳パックの再生原料から手すきのハガキを作る「紙すき教室」が行われます。現在、企画展「蒲札から近代紙幣へー渋沢栄一、新巻万円の顔となるー」が開館中です（5月12日まで）。



紙の博物館

住所：北区王子1-1-3
TEL：03-3916-2320
開館時間：10時～17時（入館は～16時30分）
休館日：月曜（祝日の場合は開館）、祝日直後の平日、年末年始、臨時休館日
入館料：一般400円、小中高200円

※ 3館共通券：一般800円、小中高320円
飛鳥山3つの博物館
ホームページ
<https://www.asukayama.jp>

部署横断・公民連携による オール北区のプロジェクト 北区飛鳥山博物館内に 大河ドラマ館を開設

プロジェクトのキャッチコピーは「LOVE LIVE LEAD」。北区を愛し（LOVE）、北区に居を構え（LIVE）、日本を導いていった（LEAD）渋沢栄一の精神を受け継ぎ、今を生きる私たちも北区をもっと好きになり、北区を盛り上げていこうという願いを込めています。事務局はシテイプロモーション推進担当課ですが、健康推進課が渋沢栄一翁コースをウォーキングアプリに加えたり、教育委員会が渋沢栄一に関する副読本を作成したりするなど、さまざまな部署が参加しています。また、区内事業者や団体を対象にした渋沢栄一関連商品開発への助成など、部署横断・公民連携によるプロジェクトです。さらに渋沢栄一記念財団、深谷市、東京商工会議所、板橋区、江東区、千代田区、中央区、北海道清水町など、渋沢栄一にゆかりのある12の団体や自治体とも包括連携協定を締結し、連携を広がっています。

令和元（2019）年9月に渋沢栄一を主人公としたNHK大河ドラマ「青天を衝け」の制作発表があり、翌年2月、北区は東京北区渋沢栄一プロジェクトの一環として、大河ドラマ館設置を表明しました。東京23区初の大河ドラマ館として、令和3（2021）年2月20日から12月26日まで、北区飛鳥山博物館内に「渋沢×北区 青天を衝け 大河ドラマ館」を開設しました。館内ではドラマに登場する衣装や小道具の展示、メイキング映像の上映のほか、主演俳優らによるトークショーなどを開催しました。緊急事態宣言による休館期間もありましたが、多くの協力を得ながら多角的に盛り上げることができ、最終来館者数は7万6000人余りとなりました。また、大河ドラマ館開設に合わせて旧渋沢庭園内に「飛鳥山おみやげ館」を開設しました。現在も区内事業者が開発した渋沢栄一関連商品販売しています。



渋沢栄一関連商品



飛鳥山おみやげ館



◆今年7月の新一万円札発行に向けたカウントダウンプロジェクト

渋沢栄一プロジェクトの 集大成としてスタート！

北区では「東京北区渋沢栄一プロジェクト」によるプロモーションを展開してきましたが、令和6（2024）年7月の新紙幣発行までの期間を「新一万円札発行カウントダウンプロジェクト」と位置付け、これまでの取り組みをさらに力強く進めていくこととなりました。

令和5（2023）年9月から開始したカウントダウンプロジェクトでは、事務局の役割をしっかりと連携担当課とシティブロモーション推進担当課が連携して担い、区と東京商工会議所北支部、渋沢栄一記念財団、国立印刷局、東京北区観光協会などがメンバーの公民連携による「新一万円札発行カウントダウン推進協議会」を立ち上げました。今年7月まで開催する各種イベントなどの実施を通して、渋沢栄一の精神と北区の魅力を全国に発信し、区民が北区に誇りや愛着を持つことを目的としています。

プロジェクトを盛り上げる PR大使のしぶさわくん

各種イベント会場やポスター、パンフレットなどに登場するしぶさわくんは、渋沢栄一の考えや活躍を現代に伝える存在として誕生した東京北区渋沢栄一プロジェクト広報キャラクターです。新一万円札発行カウントダウンプロジェクトの第1回推進協議会にも駆けつけ、協議会終了後に新プロジェクトのPR大使に任命され、令和6（2024）年1月4日に行われた東京証券取引所・大発会に参加し、新紙幣発行の年の日本の市場取引開始を見守るなど、全国に向けた北区のPRにも一役買っています。



PR大使のしぶさわくん



X (旧 Twitter)

国立印刷局東京工場と王子工場がある 「お札が生まれる街、北区」

北区は渋沢栄一ゆかりの地であると同時に、お札用紙が製造された地でもあります。大蔵省紙幣寮（現在の国立印刷局。明治4（1871）年に創設、初代紙幣頭（理事長）は渋沢栄一）は、お札を国産化するために明治8（1875）年に用紙の研究開発を始め、翌年に製紙工場（国立印刷局王子工場）を設置しました。王子工場では、明治10（1877）年に国産第一号の近代的なお札用紙が誕生して以降、昭和58（1983）年ま

で製造し続けました。現在は、印刷工場として切手などの製造を行っています。

北区西ヶ原にある国立印刷局東京工場は、昭和5（1930）年に竣工して以来、この地でお札の製造を行っており、その印刷現場をガラス越しに見学できます。



国立印刷局王子工場



国立印刷局東京工場

国立印刷局ホームページ
<https://www.npb.go.jp/index.html>

お札の技術と歴史が学べるお札と切手の博物館

国立印刷局王子工場に隣接する博物館。展示室では、渋沢栄一が肖像になる一万円札を含む新しいお札のデザインや偽造防止技術のほか、印刷局ならではの彫刻やすかしの伝統技法を紹介しています。また、歴代のお札や切手、珍しい世界のお札や切手についても展示しています。



お札と切手の博物館

住所：北区王子 1-6-1
TEL：03-5390-5194
開館時間：9時30分～17時
休館日：月曜（祝日の場合は開館し、翌平日休館）、
年末年始、臨時休館日
入館料：無料
<https://www.npb.go.jp/ja/museum/index.html>

人気YouTubeチャンネルで トークイベントを開催

今年1月27日、北とびあさくらホールにて、ミクロな視点、マクロな視点で世の中を見る人気のYouTubeチャンネルReHacQ（リハック）の公開収録を行いました。「北区といえば洪沢」を、日本全国、世界へと発信することが狙いです。

テーマは洪沢栄一、新一万円札、北区。映像ディレクターで作家の高橋弘樹氏が進行を担当し、トークが練り広げられました。第一部の「北区出身の経済・文化人の地元トーク」では、まだまだ加奈子北区長と共に、起業家・エンジニア投資家の成田修造氏と実業家・「2ちゃんねる」開設者のひろゆき（西村博之）氏に、辛口ながらも面白おかしく北区と洪沢栄一について語っていただきました。第二部の「北区と洪沢栄一、そして幕末」では、埼玉出身のお笑いタレント・ビビる大木氏と洪沢史料館顧問・井上潤氏に洪沢栄一が生きた時代の貴重なお話をうかがいました。収録された内容は、ReHacQ公式YouTubeチャンネルで視聴できます。

北区全体をカウントダウン ムード一色に演出

カウントダウンプロジェクトでは、JR王子駅、赤羽駅、田端駅、区役所第一庁舎など、区民の多くが目にする場所に「洪沢栄一の新一万円札発行まであと〇〇日」と表示したカウントダウンボードを設置し、区役所第二庁舎、赤羽駅前商業施設には懸垂幕、区内各所にはのぼりを掲げ、民間商業施設のデジタルサイネージを活用するなど、7月3日の新一万円札発行までの区民の高揚感、期待感を高める取り組みを行っています。

また、北区出身の歌手水森かおりさんが歌う「しぶさわくんの唄」をインターネットラジオ局「しぶさわくんFM」や城北信用金庫全店舗で流すほか、清掃車両に二万円札を模したラッピングを施したり、学校給食で洪沢栄一が好んで食べたとされる煮ほうとうやオートミールを使った料理等を提供するなど、区民に「洪沢といえば北区」を根付かせ、シビックプライドの醸成を図っていきます。

また、北区全体を盛り上げていくため、今年3月16日から18日にJR赤羽

駅前の商業施設を会場に「新一万円札発行100日前フェスティバル」を開催しました。北海道清水町や埼玉県深谷市など全国の洪沢栄一ゆかりの地による物産展や洪沢栄一と北区のつながりや紙幣の技術に関する講演、初心者にもわかりやすい洪沢栄一に関するパネル展示などを行いました。

洪沢スピリットに倣って 魅力あふれるまちづくりを

新一万円札発行まで、残り3カ月となりました。北区には「近代日本経済の父」と呼ばれた洪沢栄一という人がいて、凄まじい社会の変化の中で、北区に居を構えて企業の創設・育成に力を入れ、民間外交や社会福祉、教育への支援に尽力し、北区から日本を導いてきました。その洪沢栄一が新しい二万円札の顔となり、その二万円札が生まれる街が北区であることを全世代の区民の方々が誇りに思い、定着していくことを願っています。今回のプロジェクトをきっかけに、変わることを恐れなかった洪沢栄一のチャレンジ精神に倣って、北区らしさを活かしながら人やアイデアが集まるまちをめざし、シティプロモーションに取り組んでいきます。



清掃車ラッピング



カウントダウンボード



洪沢栄一ゆかりの食材等を使った給食



ReHacQ 公開収録の様様